

# 賀 春



はるか向うに、かつて三池闘争の主戦場となったホッパーが……。描いた人は姉川良雄さん(港務指導部)。機電描として港務所で働きながら、描き続けてきた。大牟田総合美術展(油絵)に作品を寄せはじめてから、24~5年になる。今では審査員。子どもはなく、大牟田市四山社宅に妻の愛子さんと二人住まい。年齢50歳。がんばっていただかねば……。



発行所  
三池炭鉱労働組合  
大牟田市不知火町2  
電話(53)3033番  
(53)3034番  
編集兼  
発行人 前川 哲也  
半年間1,200円 送料共

明けまして

おめでとーございませす

一九七九年元旦

三池炭鉱労働組合



## 冬 の 回 想

三川指導部

すぎもと かずお

年表を繰ると

一九五四年

九月、石炭協会十一万人首切り計画を発表

十月、希望退職募集強行

十一月、三池の人員整理は数より質と言明

十二月二日、一四九二名の指名解雇状発送とあり

そして五年一月五日、勧告状一括返上デモ

冬のことぶれのなかで

三池闘争の幕はあいた。

十人にひとりの生首がとぶといわれ

「去るも地獄 残るも地獄」といわれ

まる一年

なんの変哲もない石炭積み込みのための

コンクリートのホッパーに象徴される

たたかいは続けられた

「安保」のたたかいを支え、支えられ

分裂に歯ざしりしながら

ともかくもたたかった

ホッパーのたたかいいい

おかみさんたちのたくましさもい

なによりも若者たちの躍動があった。

ホッパーもすでに面影を失って長い

いぜんとしてたった一年間のあいだに

三池で七人の男が命を埋め

「有事」などという怪物が国中をのさつき

貯炭が増える。

記憶は鮮やかな部分と沈んだ部分に分れるが

わが生きざまはそのなかにあり

二十年の光茫は

凍てつくばかりの道をさしている。

